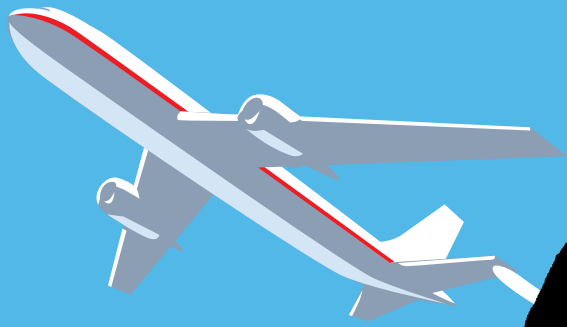


新春号

YUWA 2006 WINTER
No.010



あけ
おこ

CLOSE UP

2006.2.16 神戸空港 Take off

兵庫のヒーリングスポット 其の二
御津の梅めぐり



Air-Conditioning & Plumbing Contractors Associations of Hyogo

YUWA
ゆわ和・新春号

2006 WINTER

No.010 (1980年4月創刊・通算50号)

発行/社団法人 兵庫県空調衛生工業協会

会長挨拶 / 堀江貴雄 P.2

新春メッセージ

兵庫県知事 井戸 敏三 / 兵庫県県土整備部長 原口 和夫
参議院議員 末松 信介 / 兵庫県議会議員 立石 幸雄
兵庫県議会議員 羽田野 求

P.3・4

平成18年 新年交礼会 P.5・6

CLOSE UP クローズアップ

2006.2.16 神戸空港 Take off P.7・8

異業種交流講演会

酒ダルコミュニケーション

辰馬本家酒造株式会社 取締役社長 辰馬 章夫氏 P.9・10

兵庫のヒーリングスポット 其二

御津の梅めぐり P.11・12

現場レポート

高度で専門的なリハビリテーション施設 リハビリテーション西播磨病院 P.13・14

県庁だより P.15

兵庫陶芸美術館

兵庫陶芸美術館建設雑感

分離発注陳情状況 P.16

兵庫県青年洋上大学参加レポート P.17・18

ロシア・ハバロフスク訪問団に参加して P.19

平成17年 親睦ゴルフ大会 P.20

Information P.21

会議・講演等 / 通知事項

YUWA VOICE P.22

作陶の魅力 食器棚に並ぶ愛しい器たち

(株) 輝東設備 橋本 弥生



ご挨拶

(社)兵庫県空調衛生工業協会

会長 堀江 貴雄

新年明けましておめでとうございます。

皆様には良き年をお迎えのことと存じます。

昨年末は近年にない雪が舞い、あわよくばホワイト・クリスマスになるような風雪が列島を襲いました。地球温暖化が叫ばれて久しいですが、暖めた日本列島を冷やすための配慮かこれも異常気象の裏返しでしょうか。

景気も踊り場を脱しデフレ克服も視野に入りいよいよという予想が多くなりました。原油高、アメリカの景気などを織り込みながら個人消費がやや上向きつつあります。政府、日銀の政策がよければ上昇気流に乗れるかも判りません。しかし、私たち業界を取り巻く経営環境の厳しさは一向に好転の兆しがありません。従来は光は東方からと景気は東京からだんだんと西に波及してまいりました。大企業が良くなると中小企業の出番という感じでしたが、今回の景気はこれまでのパターンと違う様相をしています。列島改造計画から都市集中型に投資を振り向けざるを得ない政策配慮でしょうか、構造改革のなせる業でしょうか。これまでどちらかというとおろそかにしていた一極集中投資で東京に予算の大半を奪われている感がいたします。

大企業が一息つけばその波及効果はやがて中小企業にも波及していたものですが、バブル崩壊を経験した大企業の財布はナマスに懲りてなかなか緩みません。

「和をもって尊しとなす」という聖徳太子以来の価値観をかなぐり捨てるのか、私たち社会も選択を迫られているようです。いまひとつは日本人が初めて経験する人口の減少を社会全体でどう受け止め、どんな暮らしを目指すのかという大問題を抱えております。業界も技能者の高齢化対策と若年層をいかに呼び込むか、合理化の一層の深化を真剣に考える必要があります。

以上見てきたように県下の中小企業にとっての私たちには他力本願により経営環境が好転する要素は限りなくゼロに近く、それぞれの自力更生によるしかありません。企業のもてる力を結集して、企業努力に努めていただくことをお願いいたします。

会員、賛助会員皆様のご発展をお祈りし、協会運営に対するご協力をお願い申し上げます。

企業のもてる力を結集し、経営環境の自力更生を

新年のご挨拶

NEW YEAR



兵庫県知事

井戸敏三氏

～兵庫の強みを生かす～

新年あけましておめでとうございます。

平成18年が始まりました。今年は国体が開催されます。

震災復興に寄せられた多くの支援に感謝を込めて、全国の人々を温かく迎え、県民あげて元気な兵庫を

発信していこうではありませんか。

兵庫の広大な県土には、様々な風土や文化、生活があります。

進取の気性に富み勤勉で独創的な人々、世界水準のものづくり産業や地場産業、自然の恵みを生かす農林水産業、高度な教育機関や豊富な文化資源、全国有数の交通基盤と利便性の高い都市機能、豊かな自然環境など、多くの可能性に満ちています。

大震災からの復旧復興に結集された人々の英知と努力は、どのような課題も克服していく大きな力になりました。ボランティア活動の広がりや住宅再建共済制度などの先導的な取り組みも、内外から注目を集めています。

多様性と個性。これこそが兵庫の特色、全国に誇る強みではないでしょうか。

コウトリの野生復帰が進み、神戸空港など交通基盤も整い、スプリング8など産業支援も充実します。

私は、大空に、そして世界に羽ばたく兵庫を心に描き、その強みを最大限に生かして、元気な兵庫づくりに全力を注ぎます。

県民生活の安全と安心の確保。

人、産業、地域づくり。

分権社会の新たな自治確立。

「**参画と協働**」を基本とし、**成熟社会**をふさわしい兵庫、美しい兵庫をめざし、**故郷兵庫 豊かな地域**



兵庫県県土整備部長

原口和夫氏

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

今年、いよいよ2月に神戸空港が開港し、秋には「のじぎく兵庫国体」が県下各地で開催されるなど、明るい話題がいっぱいです。

今後、国体の開催へ向けて、尼崎の森中央緑地のスポーツ健康増進

施設や、北近畿豊岡自動車道等の整備を促進するとともに、もてなしの心を持ってアクセス道路等で地域を美しく演出

するオンリー1「ふるさとの顔」づくり事業を実施します。

また、昨今の課題である、鉄道の安全対策、建築物等のアスベスト対策、ヒートアイランド対策としてのグラスパーキング(芝生駐駐車場)の整備、景観向上・防災対策ともなる「県民まちなみ緑化事業」等にも積極的に取り組んで参ります。

今年も、皆様方とともに安全・安心で元気な兵庫を支える基盤づくりに努めて参る所存ですので、各種公共工事の推進や、災害に備える住宅再建共済制度をはじめとする減災対策の推進にご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いい



参議院議員

末松信介氏

新年明けましておめでとうございます。

兵庫県空調衛生工業協会ご関係者の皆様におかれましては、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

早いもので、一昨年七月に参議院選挙で当選させて頂き、ほぼ一年半

が過ぎました。

昨年は一年生議員ながら本会議で自民党を代表しての質問に立ち、また参議院の北朝鮮拉致問題等特別委員会の理事にも就任しました。国土交通委員会でも数度にわたり質問並びに参考人質疑を行い、党の国土交通部会においても、耐震改修促進税制創設等積極的に議論し

て参りました。

お陰様で“天下国家の視点”というものを少しは考えられるようになった自分に気づかされます。

国会への行き帰りに目に触れる東京の都心部は相変わらずのビルラッシュで、地価が上昇に転じたこともあり、ミニパブルの様相を呈している観もございませう。

地元週末帰ります度に、まだまだ活況ぶりには格差があることを実感致す次第であります。

本年は、とりわけ兵庫県におきましては、神戸空港開港・国体開催を控え、地元経済の本格景気浮揚がかかった大切な節目の年であります。国政での活動を通じ関係省庁との連携も深め、元気な兵庫の実現に真摯に取り組んで参る所存です。

結びに、ご関係者皆様の益々のご発展とご健勝ご多幸

MESSAGE 2006



兵庫県議会議員

立石 幸雄 氏

新年明けましておめでとうございます。

皆様にはご家族おそろいで、健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は、各般にわたり多大なご支援、ご厚情をいただきありがとうございました。

特に、衆議院議員選挙では自民党に対して圧倒的なご支援をいただきました。皆様のご期待に応えるべく、郵政改革をはじめ道路公団の完全民営化など様々な改革、規制緩和等々いわゆる小さな政府への取り組みが進められています。

また、戦後60年という節目の年を迎え、現在の国民生活や世界の中における日本の立場などを考える時、日本国憲法は果たしてこれでよいのか、様々な意見が集約されています。

一方、私たちの住む兵庫県、神戸市におきましては、あの阪神・淡路大震災から10年を経て、ハードとしての街づくりは出来上がりつつあるものの、高齢化社会での市民生活

など、まだまだ課題が山積しています。

本年は、秋には兵庫県下各地でスポーツの祭典「のじぎく兵庫国体」が、引き続き障害者スポーツ大会「のじぎく兵庫大会」が、全国の人々を迎え開催されます。この大会は、阪神・淡路大震災の支援に対するお礼と感謝の気持ちを表す場であるとともに、選手や関係者のみならず多くのボランティアによる運営など「兵庫ならではの」ものです。したがって、私たちも、訪れる県外の人々に温かい気持ちで接し、復興なった街や元気ぶりを見ていただくことが大切ではないでしょうか。

神戸市では、いよいよ2月16日に神戸空港が開港。北は札幌から南は沖縄まで主要7都市と神戸が結ばれ、神戸市民にとって空の旅が便利で身近に利用できることとなります。

このように、本年は戦後60年、震災10年という節目を越え、新しい出発の年であるといえます。景気も上向き傾向にあり、希望の持てる明るい年になってほしいものです。

私といたしましても、新しい気持ちで県政に取り組み、皆様の暮らしと街づくりのために一層の精進をと、心に誓ったところでございます。



兵庫県議会議員

羽田野 求 氏

新年あけましておめでとうございます。

平素から兵庫県議会に格別のご理解とご支援を賜り、心からお礼申し上げます。

昨年は、郵政民営化を争点とした総選挙をはじめ、国と地方の税財源をめぐる三位一体改革、政策金融改革、医療制度改革が進められました。

また、兵庫県におきましても、“元気ひょうご”をキーワードに第二期井戸県政がスタートしました。

日銀神戸支店の発表では、県内の景気は、輸出や設備投資の増加、さらに個人消費の持ち直しで回復基調を維持しているとのことですが、現場はまだまだの感が強いと思います。

今年こそは、デフレから脱却し、回復基調を家計部門や

内需型企業、中小企業へと拡大する「景気の本格回復」の年にしなくてはなりません。

いよいよ人口減少社会に突入し、“人の元気”“産業の元気”“地域の元気”をどう創り出すか、本格的な議論と取り組みで、希望と安心、元気な神戸・兵庫へ出発する第一歩の年にして参りたいと思います。

昨年来の耐震強度偽装事件は、建築確認制度そのものの信頼性を大きく損なうとともに、安ければ良いという風潮に対する大きな教訓だと思います。大切なことは、安全とそれを裏付ける技術です。その意味からも、公共事業の最低制限価格制度の健全運用は、品質保証の点で大切であります。

ライフラインを確保し人々の生活を守る貴協会の皆様方の使命と役割の大きさに敬意を表し、ますますのご発展とご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせて

平成18年 新年交礼会

日時：平成18年1月18日(水)

場所：ホテルオークラ神戸1階 平安の間

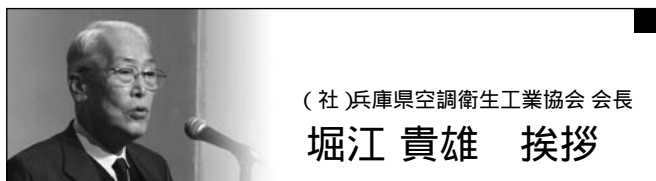
参加者：286名

主な来賓者

井戸敏三 兵庫県知事、藤本和弘 兵庫県副知事、末松信介 参議院議員、立石幸雄 兵庫県機会議員、羽田野求 兵庫県議会議員、丸山素道 近畿地方整備局管轄部設備課長、佐々木晶二 兵庫県土整備部まちづくり復興担当部長、岩佐秀人 神戸市都市計画総局参事、平野正男 都市再生機構西日本支社技術監理部マネージャー、鷲尾英己 兵庫県住宅供給公社県営住宅整備部長

今年も、会員・賛助会員はもとより、多数のご来賓にご列席いただき、盛大に新年交礼会を開催することができました。また、席上、のじぎく兵庫国体・のじぎく兵庫大会に対する「ボランティア募金」の記録を堀江会長から井戸知事に贈呈。井戸知事から感謝状とはばたんのぬいぐるみが贈られました。

(なお、辰馬本家酒造(株)様の黒松白鹿で乾杯をとり行わせていただきました。)



(社)兵庫県空調衛生工業協会 会長
堀江 貴雄 挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。平成18年兵庫県空調衛生工業協会の新年交礼会に、かように多くの方々にご臨席賜り、高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

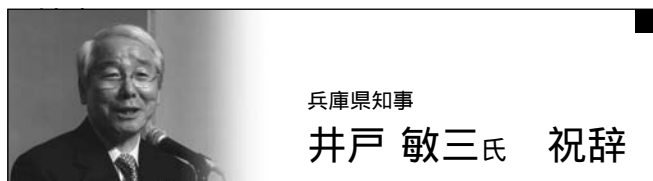
さて、皆様テレビや新聞でご承知のように、消費者指数や産業指数が上向きになり、銀行の貸し出しも増加。政府の経済動向も日本経済の回復を認めている昨今ではございますが、地域、業界、企業間の格差は顕在で、私も兵庫県内の中小企業に取りましては、未だ「春遠からじ」といった思いです。

昨年は、歴代会長のご尽力もあり、7月に国土交通省の「建設優良団体」のご指定を受け、表彰していただきました。また、協会として、県下10県民局をめぐり、ライフライン復旧に対応するための当協会「緊急連絡網」についてご説明させていただきました。こうした活動を県に認めていただき、会員には評価点の加点をいただいております。

本年も、役員一同、業界の地位向上に努力してまいりたいと存じます。なにとぞ、変わらぬご支援、ご指導をお願いいたしますととも



に、本日ご列席の皆様のみますのご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございます



兵庫県知事
井戸 敏三氏 祝辞

明けましておめでとうございます。

会長が、相対的には景気の基調は順調だが、業種、地域によって差があるとおっしゃいましたが、まさにそのとおりだと思います。しかし、厳しいからこそ課題があり、課題があるからこそ、それに対する挑戦をして、それを乗り越えていくのが私たちの務めではないかと思えます。

昨今、官から民へといわれていますが、事業量を考えますと、官はかなり減少し、民は相当増加しています。空衛業界におかれましても、「官から民へ」が進みつつあるという思いがいたします。

最近の大きな話題として、耐震偽装問題がありますが、私は二つの意味で失望を感じています。一つは、阪神・淡路大震災からの復興の過程で、耐震度を上げることが大きな課題で



あり、だからこそ、耐震診断、耐震補強を行って安全・安心な生活空間づくりに努めてまいったわけです。それが、逆のことをして金儲けをしようという人がでてきた。これは、我々の経験や発信があまり理解されていなかったということです。もっと理解を深めなければなりません。もう一つは、専門家としてのプロ意識、倫理が汚されたということです。専門家としての倫理観を無くし、技能を犠牲にして自分の利益を追求する。



そんな専門家が出てきました。私たちは、もう一度、社会全体で専門家の倫理を取り戻す努力をしなければなりません。

だからこそ、私たちの貴重な経験を生かし、次にこそ安心・安全な基盤の上に成り立つ社会を築き上げていきたいと思ひます。

私は、今年を「元気な兵庫」をつくるスタートの年にしたいと願っています。元気な兵庫は、いろいろな元気の集まりでスタートいたします。2月には神戸空港が開港。秋には50年ぶりの国体の開催が控えています。「感謝と全員参加」という新しい内容をもって、兵庫の心意気を県民の皆様と一致団結して示していきたいと思っております。

もう一つ、最近「都心回帰」といわれています。いろいろ理由はあるでしょうが、利便性、社会資本整備がすでに整っている所を活用しようとする意味が大きいのではないのでしょうか。こうした動きをキャッチしていくべきだと思います。皆様と一緒にまちづくり、まちの再生を行う場合の一つの視点になるのではないのでしょうか。これから10年ぐらいの単位で考えながら、皆様と一緒に新しいまちづくりに踏み出していきたいと思ひます。

最後になりましたが、会員の皆様のますますのご発展、ご健勝で素晴らしいご活躍をなされますことを心からお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



参議院議員

末松 信介氏 祝辞

皆さん、明けましておめでとうございます。

20日から国会が始まります。私自身は、2～3の国土交通委員会に関わることになると思ひます。明日の参議院国土交通委員会では、耐震偽装の被害者と学識者の意見を聞くことになっています。

昨年の流行語大賞は「小泉劇場」でしたが、小泉劇場の主役は、830万人の新たに投票に行かれた方々です。つまり、都市部に住む20～30代の若い人々が、自民党・公明党を勝たせてくれたというわけです。しかし、私は、この大きな勝ち、大きな負けの裏返しでもあると思っております。謙虚に、そしてしっかりと、皆様の声に耳を傾けていくことが大事だと思います。

さて、昨年末に税制調査会があり、私も少なからず発言いたしましたが、耐震改修促進税制が創設されました。災害後、仮設住宅を建設するにしても多額の税が必要です。先に税

金を使うか、災害が起こってから大きく税を使うかの違いです。今は、生きた税の使い方をしたほうが良いということになってまいりました。昨年兵庫県に創設された住宅再建共済制度につきましても、知事は所得控除ができればとお考えだと思います。住宅も、量から質の時代になり、耐震度、バリアフリー度、省エネ度などが大切になっています。皆様にはいろいろな思ひがあたりたと存じますが、私なりに頑張っておりますので、どうかお組みいただき、ご支援くださいますようお願いいたします。

皆様のご多幸をお祈りいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



兵庫県議会議員

立石 幸雄氏 祝辞

明けましておめでとうございます。去年は、顧問として大変お世話になりましたことをお礼申し上げます。

この一年、いろいろなことがあろうかと思ひます。しかし、安全で安心は信頼で結ばれて初めて勝ち得るものではないでしょうか。

今年一年、本当に安全で安心な県民生活が保てるように、そして、安全に社会が迎えられるようにと思っております。

どうか、業界の皆様のみならず、ご繁栄を祈念しながら、ご挨拶に代えさせていただきますと思ひます。



兵庫県議会議員

羽田野 求氏 祝辞

新年交礼会にお招きいただき、ありがとうございます。知事がおっしゃいました「元気な兵庫」をどう創り出すかが、今年のキーワードだと思います。2月から県議会も開かれますが、このキーワードを踏まえ、顧問として頑張っていきたいと思ひます。

今、ここに、知事をはじめ当局の皆様がおそろいです。そこで、協会の皆さんが常日ごろ要望されています「公共事業の分離発注」「最低価格制限制度」をこの場をお借りして陳情いたしたいと思ひます。最低価格制限制度は、耐震偽装問題にも関わっております。安ければよいという風潮を一掃し、しっかり良い



特集 2

クローズ アップ



UP

2006.2.16 神戸空港 Take off



KOBE AIRPORT MARINE AIR

神戸空港は、環境に調和したエコアップエアポート



神戸・三宮から南へ8km、ポートアイランド沖で建設が進められていた「神戸空港(マリンエア)」が、2月16日、いよいよ開港します。

近頃は、ビジネス・観光・帰省などに気軽に飛行機が利用されるようになり、年間計算では3人に2人が国内線を利用していることとなります。今後も着実な伸びが見込まれ、今年度中に、全国の国内線利用者は1億人を突破すると推計されています。しかも、国内航空旅客は首都圏と関西圏に集中。伊丹空港、羽田空港は概ね満杯の状況が続いています。神戸空港には、日本航空、全日本航空、スカイマークエアラインズの3社が就航。神戸 羽田11往復をはじめ、沖縄、鹿児島、札幌、仙台、新潟、熊本へ全27便を運航し、伊丹空港の混雑解消に一役かいます。

神戸空港の開港で、関西圏には3つの空港が誕生しますが、関西国際空港は国際拠点空港、伊丹空港は関西圏における国内線の基幹空港、神戸空港は神戸市およびその周辺の国内航空需要に対応する地方空港と役割を分担。3空港のネットワークで関西の未来をひらこうとしています。

そんな神戸空港は、環境との調和に大きなポイントを置いているのが特徴の一つ。今回は、(株)竹中工務店、ダイダム(株)、神戸空港ターミナル(株)のご好意で、開港を間近に控えた神戸空港の環境対策面を中心に見学させていただきました。

海・陸の環境改善に寄与

神戸空港の埋め立てには、市内で発生する建設土砂を受け入れ、陸の環境改善に役立てると共に、赤潮や海水中の酸素不足などの原因になるヘドロを浚渫して受け入れることで海の環境改善にも役立っています。

三宮から空港島までは、新交通システム・ポートライナーで一直線。便利な公共交通機関で結ぶことで、自動車交通量の抑制が期待できます。



空港島の周囲に環境創造型護岸

空港島周囲の護岸は緩やかな石積みで、太陽光が届く浅瀬が幅広くつくられています。浅瀬は、人工的につくっても、自然の磯のように豊かな生態系が育まれることが実証されています。豊かな生態系は、生態系がもつ浄化作用を通じて、よりよい環境を創造します。空港島では、外周7.7kmのうち、岸壁部分を除く6.7kmに創造型護岸が施されています。北側護岸の一部は階段式になっていて、市民が気軽に憩える設計。あわせて親水緑地も整備され、開放的な水辺空間が形づくられています。

また、西側には人工ラグーンが設けられています。ラグーンとは、岩や砂に囲まれ、海水が入り出す浅い海水池のこと。潮の満ちひきに伴い、岩や砂に付着した生物によって海水中の汚濁物質が効果的に除去されます。人工ラグーンを取り巻く砂浜や磯浜、緑地なども設けられ、一帯はレクリエーション性の高い、大規模な親水公園になっています。



雨水や再生水をトイレ洗浄水に活用

空港島の汚水は、すべて公共下水道で、六甲アイランドの下水処理場に送られ、高度処理され、周辺海域の汚染を防ぎます。そして、一部は再び空港島に送られ、資源の有効利用が図られています。

再生水は、ろ過処理された雨水と共にタンクに貯留。さらにアメリカの国防総省が開発した磁気波動による水処理装置「マグ・ユニット」でろ過、トイレの洗浄水にリサイクルします。配管に接続した特殊合金でできた磁気体を水が流れると、磁気によって電気分解され、イオン化の促進、クラスターの細分化が起こり、pHの弱アルカリ化、塩素の低減などが見られます。赤サビ・スケール・スライムも除去・防止されますから、配管なども清潔に保たれ、劣化の防止にもつながります。

また、神戸空港は防災拠点に位置づけられています。そのため、上水用、雑水用を問わず、すべての貯水タンクには緊急遮断弁が設置されていて、災害などでライフラインが途絶えた場合にも、一定の水が供給できるようになっています。



ターミナルビルはエコ&ユニバーサル仕様

ターミナルビルは4階建て。1階は到着ロビー、手荷物受取所。ポートライナー神戸空港駅と直結した2階は出発ロビー、チェックインロビー。3階は飲食店街、4階は送迎デッキと展望レストランになっています。

ターミナルビルなどの冷暖房には、発電時の排熱を有効利用する省資源型のコージェネレーション・システムを組み入れた地域冷暖房を導入。大気汚染の防止を図っています。また、42,000㎡ / 秒の大型ファンを設置。ビル内の空気清浄を保っています。

空調・衛生関係等すべての機器は、1階と3階の機械室に設置されています。3



階の空調機器室の隣にはリターン・チャンパーが設けられ、できるだけ外気を取り入れる方式。また、すべてのOA機器には除塩フィルターを取り入れ、塩害を防ぐ工夫も凝らされています。

エコロジーに配慮したターミナルビルには、また、ユニバーサルデザインも導入されています。各階のトイレには、車いす使用者、介助の必要な人、カート利用者などの利用に対応した大型便房の多機能トイレを設置。水栓や洗浄スイッチなども操作しやすいものが採用されています。2階にはベッドを備えた多機能トイレもあります。一般トイレも、便房の広さ・通路の幅員を十分に取り、手すり先設置。ウォシュレットが標準装備され、女性用には音姫機能を備えたものを使用。手洗いやウォシュレット用には、電気温水器給湯システムが導入されています。

ターミナルビル屋上を緑化

市民の憩いの広場にうってつけな親水緑地公園、滑走路と見事なコントラストを見せる広い芝生地帯、街路樹や植え込みの美しい緑陰... 空港島には緑がたっぷり。地球温暖化の原因のひとつとされる二酸化炭素の軽減に力を発揮する緑。大地にしっかり根を張り、土壌を強固にする役割も果たします。

また、ターミナルビルの屋上も緑の芝生で覆われています。夏は断熱、冬は保温効果を発揮して、室温の急激な変化を抑制。エアコンなど空調燃料の削減が図れ、省エネにつながります。雨を保水し、コンクリート部に熱を溜め込まないため、ヒートアイランド現象への対策にもなります。

このように、空港島、ターミナルビル共に環境への配慮が随所に見られます。それが、神戸空港がエコアップエアポートと呼ばれるゆえんです。



酒ダル コミュニケーション

～ 伝統は、ただ長きをもって尊しとせず～



辰馬本家酒造株式会社
取締役社長

辰馬 章夫氏
AKIO TATSUUMA

PROFILE

昭和16年1月21日生まれ。昭和38年慶應義塾大学法学部法律学科卒業。昭和38年朝日麦酒株式会社入社。43年辰馬本家酒造株式会社入社。45年同社代表取締役常務就任。49年同社代表取締役専務就任。51年学校法人辰馬育英会理事就任。55年同社代表取締役副社長就任。56年同社代表取締役社長就任。59年西宮納税貯蓄組合連合会会長就任。63年財団法人西宮市文化振興財団理事就任。平成4年西宮国際交流協会理事就任。8年西宮納税協会会長就任。13年西宮ユネスコ協会会長就任。15年西宮商工会議所会頭就任。16年西宮酒造組合中央会会長就任。現在に至



建設業という枠にとらわれず、広く有意な情報にふれる機会を創造することを目的のひとつとする「異業種交流委員会」では、平成17年11月28日、神戸市中央区のラッセホールで「第二回異業種交流講演会」を開催。清酒「白鹿」で知られる辰馬本家酒造株式会社の代表取締役社長・辰馬章夫さんをお招きし、「酒ダル コミュニケーション」と題する講演を行っていただきました。講演会には会員約90人が参加。340年を超える古い伝統を継承しつつも、常に時代に即した新たな価値の創出に挑む同社の姿勢に、業界のトップを走り続ける秘訣を垣間見た思いがしました。

酒は心を結ぶ コミュニケーション・グッズ

今日の世の中は、地球規模でデジタル社会が進んでいます。地縁、血縁に電縁がプラス。離れた人たち、見知らぬ人との新しい絆が創出され、地球が狭くなっているのが現状ではないかと思えます。その反面、各地で紛争は絶えず、家族や地域といった近いところでの人間関係が希薄になっているように思えます。人口は多くとも、心の過疎化が広がっているのではないのでしょうか。

何事も早くて便利な世の中は大いに歓迎



ですし、ビジネスにも欠かせません。しかし、あまりにバーチャルな世の中が広がりすぎると、リアルな世界を捉える感覚を退化させるのではないかと思います。白鹿グループの教育事業で、30数年前から幼児教育に取り組んでいます。近頃の子供たちを見てみると、まだ器ができていないところへ知識をどんどん詰め込まれているように感じます。特に、幼児期の大事な時期には、機械に感性を奪われないようにしなければなりません。そのためには、自然や美しいもの、本物にふれ、感動する心を養う。そして、集団生活の中で人にもまれて喜怒哀楽を感じながら学習する。さらに、他者との葛藤をバネに社会的自我を構築することを忘れてはならないと思います。互いの信頼関係は、人間同士がぶつかり合い、いろいろな葛藤を乗り越えて初めて生まれ、英知と勇気を出し合う中で深まっていくのではないのでしょうか。そして、互いの心をつなぐコミュニケーション・グッズとして酒の使命があるのではないかと思います。

日本酒は平和の酒

日本人は、人智の及ばぬ神と一緒にいるための道具として酒を酌み交わしてきたという歴史があります。我々は農耕民族です。祭りでは、神と一緒に神酒を上げ、豊作を祈願。その後、“なおりい”という形で宴を始めたのです。酒は神とのコミュニケーション・グッズであり、元来“和の酒”なのです。

現在、日本酒は国内でいささか元気がありません。反面、アメリカやアジア諸国では大きく伸びています。ヘルシー感覚が受けているようです。私は、世界平和のためにも、“和の酒”=日本酒をもっと世界に広げたいと願っています。

私どもの業界では、日本酒の「唎酒選手権大会」を開催しています。全国の予選を通過した各都道府県代表が、日本酒の知識と五感を競い合うというもので、もう25年目になります。今年は、初めて外国人のチームが参加、3位に入賞。国際色を帯びるようになってまいりましたが、私は、もっと世

界中に広め、ゆくゆくは「酒オリンピック」の開催を夢見ています。

酒造りは農業の一環

それでは、肝心の酒の話に入りましょう。酒には、法律上の定義があります。アルコール1度以上の飲料を酒といい、ビール・ワイン・ウイスキーなど10に分類されています。そのひとつが清酒です。そして清酒は、米、米麹、その他政令で定める物品を原料とし、発酵させてる過したものと定義されています。

秋になると新米が蔵に運ばれ、それを磨き、もろみを育て、翌年の春に酒を絞り、密閉タンクで約半年熟成。秋に出荷します。つまり、米の収穫から酒の出荷まで、1年のローテーションで回っているわけです。

よい米がなければ、よい酒は造れません。酒造りは、米を植えるところから始まります。酒造りは、いわば農業なのです。

酒造りの最適地 灘

酒が商品として流通したのは、江戸時代になってからのことです。そのころ、技術が発達し、酒の保存がきくようになりました。また、江戸という大きなマーケットで消費されるようになり、酒造業が産業として確立したわけです。

樽廻船で江戸に“下り酒”が送り出された当時から、灘は日本一の酒どころだといわれてきました。現在も、全国生産高の3割を今津・西宮・魚崎・御影・西郷の灘五郷で占めています。

では、なぜ、灘で酒造りが盛んになったのでしょうか。それは、自然の恵みにあります。よい米、よい水、よい気候に恵まれていたからです。



米は播州米。現代では、酒造り専用の酒米「山田錦」を各蔵元が農家と契約して栽培しています。水は、六甲山系の伏流水。砂礫層、貝殻層を通った水が西宮へ流れ、「宮水井戸」は今なお、こんこんと湧いています。また、六甲山と大阪湾に抱かれた地形によって吹き降ろす「六甲嵐」は天然のクーラー。各蔵は北側に窓を設け、この木枯らしを呼び込んでもろみの冷却に活用し



ていました。現在はエアコンで、一番よい状態をつくり出していますが、一番寒い季節には、六甲嵐を利用することもあります。灘の酒は、熟成させて秋になるとグツと味が冴え、“秋晴れ”の酒と呼ばれていますが、これも、酵母の成長を助ける成分を含む宮水の特長のひとつです。このように、自然の恵みをうまく活用して行っているのが、灘の酒造りなのです。

「育てる」が白鹿のメインテーマ

私どもは、戦災、震災など数々の災害を潜り抜けて34年走り続けて参りました。これも、日本酒を愛飲してくださる皆様あってのことですし、当社としても、信頼に応えてきた賜物と思っております。

しかし、伝統は、ただ長きをもって尊しとは思いません。時代に即した、新たな価値を創出・付加することが必要です。そうでなければ、未永い存在価値は得られないと肝に銘じております。

もともと、白鹿には社是・社訓がありません。これも、過去にとらわれず、時代に合った理念を抱けという意味だと解釈しています。私は15代目に当たりますが、現在の白鹿グループは「育てる」をメインテーマにしています。酒を育てる、人を育てる、よい環境を育てる、よい仕事を育てるなどです。

酒造りは、単に酒を提供するだけでなく、“おいしい”“また飲みたい”などの感動を提供するものだと考えています。その基本は、「凡時徹底」です。あきたりのことも積み重ねることで、あきたりではない力になると信じます。チャンスは頻繁にはありません。しかし、それを掴めるかどうかは、日ごろの備えにかかっていると思います。凡時徹底がチャンスと呼ぶ、そういう環境を大切にすることを私は理念としています。

私どもは急成長を望んでいません。チームは成長ではなく膨張だと考えています。安定的に長く続けることに価値を置いています。つまり「継続は力なり」ですが、そこにも落とし穴があります。継続には力になるものと単なる惰性の2種類があります。自己に対する厳しさ、やる元気とやめる勇気を持ち主にこそ、継続の力が訪れると思います。それが「育てる」ことの基本だ

ろうと思います。

日本酒発で、日本文化のルネサンス

阪神・淡路大震災で、木造瓦葺の古い酒蔵のほとんどが倒壊しました。失われたものは元には戻りませんが、私どもでは同業者と協力して、「酒造り文化にふれられるまち」「酒蔵のあるまち」など、雰囲気のあるまちづくりを進めています。

酒造業は発酵工業で、環境を保つため広い土地を占有しています。それが、まちの開発を阻害している一面は否めません。ただ、乱開発の防波堤にはなっていると思っています。また、宮水の保存にも、地元にご協力いただいております。そのご恩返しと、地場産業としてまちの発展に貢献する意味から、酒造りの場を閉鎖された生産の場にせず、皆さんに喜んでいただける空間にしようと取り組んでいるのです。

もうひとつ、日本酒業界で取り組んでいるのが、「日本文化のルネサンス」です。日本は経済大国になりましたが、文化や心が荒んでいるのが現状ではないでしょうか。日本人がもっていた“謙譲の美德”“感謝の心”“恥の文化”などはどこかへ行ってしまったようです。日本文化が根枯れ現象を起こしかけているように感じます。

優れた文化は心を豊かにします。それを、日本文化の根底である稲作の所産としての「日本酒」発で、再生しようという試みです。そのパフォーマンスとして、「日本酒で乾杯」運動を展開しようとしています。息の長い活動を行い、日本の文化、日本の美に感動を覚える環境を作り出していきたいと考えています。

唼き酒で好成績

講演後、「唼酒」が行われました。純米酒、吟醸酒、樽酒の3種類を唼き分けるというもの。係りの方のヒントがよかったのか、17人が挑戦して、14人が全問正解という好成績をあげました。正解者には、辰馬本家酒造株式会社から「酒名人認定書」が授与されました。



御津の梅めぐり(たつの市)

特集 3 兵庫のヒーリングスポット 其二



「日本で「花」といえば、現在は「桜」を指しますが、平安時代前期までは「梅」でした。白梅、紅梅それぞれに美しく、馥郁たる香りも魅力の梅。2月中旬～3月中旬ごろが花の見ごろ。「梅のまち」として知られるたつの市御津町で、海を望む梅林を散策してみたいかがでしょう。

綾部山梅林 ひとめ2万本、西日本随一の規模

24ヘクタールの丘陵を覆う早咲きの紅梅、遅咲きの白梅。「ひとめ2万本」と呼ばれるほど多くの梅が咲き誇る綾部山梅林は、関西屈指の人気観梅スポット。海が見える梅林として知られ、見晴らし台から眺める青い海と空、梅の花のコントラストは、思わず息を呑む美しさ。家島群島や小豆島など、瀬戸内海に浮かぶ島影が望め、快晴の日には淡路島、明石海峡大橋までの展望が開けます。また、北側のふもと黒崎地区には、約



13haの畑に黄色い菜の花が咲き乱れ、梅林とその美を競い合います。



梅の木は割と丈が低め。木の下でお弁当を広げることができます。園内では、瀬戸内の新鮮な魚介や地元産の野菜を盛り込んだ婦人部手作りの「梅ごはん弁当」なども販売、人気を呼んでいます。綾部山で育った梅を原料にした梅干しや梅ジャム、梅ワインなど、梅にちなんだお土産も色々そろっています。また、観梅期には「みつ梅まつり」が開催され、俳句大会や写真コンテスト、お茶会などのイベントも盛りだくさん。模擬店も出展し、賑わっています。



開園時間 / 9:00～17:00(観梅期) 休園日 / 月曜日、年末年始(2/11～3/21 無休)

入園料 / おとな500円、こども400円(梅ジュースあるいは甘酒付き)

アクセス: 山陽自動車道龍野IC・龍野西ICから約20分、姫路から国道250号を西へ約30分

観梅期間はJR網干駅、山陽網干駅から臨時バス運行(新舞子荘行き)

問い合わせ

07932-2-3551

(黒崎梅園組合)



世界の梅公園

ここは中国？異国情緒いっぱい
(たつの市御津自然観察公園)

国道250号の「世界の梅公園前」バス停から徒歩約15分、絶景を誇る「世界の梅公園」に到着します。中国、台湾、韓国など外国品種60種と日本産品種計344種、約1,800本以上の梅木が植栽された園内には、中国をイメージした山門や楼閣などが点在。たおやかに咲き誇る梅花と中国建築が見事にマッチし、異国情緒を醸し出しています。

尋梅館 (写真)

公園の中心的な施設で、木造2階建て。1階は、梅の起源、梅の一生、梅の歴史などのコーナーが設けられた梅の資料館。2階は喫茶コーナー、展望室になっていて、咲き誇る梅を眺めながらくつろげます。梅製品や御津の特産も販売されています。

唐梅閣 (写真)

園内の一番高いところに建つ楼閣。日中の友好が唐の時代から続いてきたこと、また、これからも永遠に続いていくことを象徴しています。「閣」は、高所にある周囲を一望できる建物のこと。その名のとおり、瀬戸内海の大パノラマが楽しめます。

雪海香涛 (写真)

中国では満開の梅林を「雪海香」(眺めは雪のごとく、香りは海の波のごとし)と形容することから名付けられた山門。

来鶴軒 (写真)

中国杭州の西湖畔に「放鴨亭」があります。吉祥を象徴する鶴が、杭州から日本の御津町に飛来し両国民の友情を結ぶ使者。「軒」は、明るく、広く、静かに休憩する場所を示します。

問い合わせ
07932-2-4100
(尋梅館 梅資料館)

地元の
企業紹介

株式会社 播新設備

代表取締役 乾 昭治

〒679-4332
たつの市新宮町馬立114-8
TEL.0791-75-0318
FAX.0791-75-3022
資本金 2000万円

事業内容 冷暖房・空
気調和設備工事、換気
設備工事、給排水・衛
生設備工事、消化ス
プリンクラー設備工事、
水道施設設備工事、各
種配管設備工事



行き届いた社員教育が信頼に

当社は昭和49年2月の創業以来、地域のお客様にかわいがってまいりました。卓越した技術力、安全への対応はもちろんのことですが、当社で特記すべきは、お客様への対応です。社員には「お客様を大切に、丁寧に」と常に教育を行い、仕事と社内全般への目配り・気配りも欠かしません。おかげさまで、どちらのお客様からも「社員教育が行き届いている」と高い評価をいただいております。その評価が評判となって広く浸透。当社の信頼につながると共に当社の名を高める役割を果たしております。地域のお客様から名指して仕事を頂戴することも少なくありません。県立播磨地域養護学校「体育館・プール」機械設備工事を手がけ、多大な評価をいただくことができたのも、評判が功を奏したものと自負しております。

また、当社では、「納得のいかない仕事は請けない」ことを営業方針としています。それではなければ健全な経営は成り立たないと考えております。「人は自分の甲羅より大きな仕事を狙わないと人間が大きくなれない」といわれますが、まさにそのとおりだと思います。当社は、この言葉を常に頭に入れ、これからも新たなチャレンジを続けてまいります。今後とも皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

播磨科学公園都市に2月末完成 高度で専門的な リハビリテーション施設

リハビリテーション西播磨病院の空調・衛生工事



高齢化や重大事故の増加などの影響から、神経疾患や高次脳機能障害等、長期にわたって高度かつ専門的なリハビリテーションを必要とする患者が増大。多様化するリハビリへのニーズに対応するとともに、神戸市西区の県立総合リハビリテーションセンターの機能を充実・補充するため、2月末の竣工をめざして、播磨科学公園都市で「県立西播磨総合リハビリテーションセンター」の整備が進められています。

今回は、センターの中核となる「リハビリテーション西播磨病院」の設備工事に携わった、空調JV工事事務所所長の須賀工業株式会社・梶浦輝生さんと、衛生工事事務所所長の株式会社水明堂・高津大胤さんに、リハビリテーションセンターの概要と、工事のご苦労、工夫したところなどをお話いただきました。

[空調設備工事] 須賀・山本・田染特別共同企業体
[衛生設備工事] 株式会社 水明堂

適時適切な リハビリで 社会復帰を 支援

豊かな自然に恵まれた播磨科学公園都市の一角に、木とレンガをふんだんに用いたちょっとレトロな印象の建物群が建設されています。一般病床100、神経内科・整形外科・リハビリテーション科を主な診療科目とする「リハビリテーション西播磨病院」を中心に、研修室・展示ホール・交流ホール・交流サロン・レストランなどを備えた「研修交流センター」、アリーナ・温水プール・グラウンドを備えた「ふれあいスポーツ交流館」、屋外リハビリ施設などからなる「県立西播磨総合リハビリテーションセンター」です。

センターのコンセプトは「癒し、交流、チャレンジ、再生」。全県の医療機関との円滑な連携のもと、地域の医療機関では対応が困難な重度の患者を紹介制によって受け入れ、適時適切なリハビリを実施して社会復帰を支援。豊かな自然の中での屋外リハビリや園芸療法なども取り入れ、自立生活や社会復帰に向けた新たなリハビリモデルを提供し、その成果の普及を図ることを目的とした施設です。また、健康管理や残存機能の維持向上に効果のあるパワーリハビリや、寝たきり防止・要介護状態の改善に対応する予防的なリハビリなども実施されます。



厳しい工期を 工夫で 乗り切る

「1年を切るという工期の短さが一番苦労した点です」と梶浦さん。ほとんどが1階建てのため、躯体工事が一度に進み、配管・ダクト工事のスタートも一度に重なったそ

うです。そのため、現場を円滑に進めていくために建築との細かな打ち合わせが多く必要になった点が大変だったといいます。「少しでも工期の短縮を図るため、プレハブ加工管で対応。厳しい工期を乗り越え、材料置き場の縮小が図れるというメリットも加わりました」。

短い工期は、衛生工事も同様です。「外構工事は工事期間末期に施工する予定でした。しかし、この辺りは、冬になると天候が安定しないことが多く、積雪も懸念されました。そこで、施工後の養生は必要ですが、躯体工事を行っている間に、敷地が広くボリュームのある外構配管工事を行い、工期の短縮を図りました」と語る高津さん。ピットが多く、夏の暑い時期に湿気の多いピット内で配管工事を行うご苦労もあったとか。

また、リハビリテーションセンターの建物は、とんがり屋根が特徴。屋根裏があり高所作業が多いため、安全面にも随分気を使われたそうです。



快適に リハビリに 励める環境を つくる

患者に優しい設計が施されているリハビリテーションセンター。床、壁、天井はもちろん、窓のサッシにまで木材が使われ、温もりある雰囲気だけでなく、手足に優しく、やわらかな感触が考慮されています。

「患者に快適な環境づくりが何より求められました。診療棟をもつということもあり、ドクターから温度の差がなるべくできないようことの指示がありました。そこで、この施設には四管式ファンコイルを採用しています」。また、大空間の訓練室には、壁面噴出し式の空調機に加え、入り口付近に床置き式のファン

コイルを設置し、快適な環境づくり。「各病床には医療ガスなどの配管も必要ですが、木づくりのぬくもりを無機質な配管で壊さないよう、梁の裏側を通すなどの工夫もしました」。患者が気分よく、快適にリハビリに励めるよう、細やかな気配りが行われています。

衛生設備には、患者にとっての使い勝手の良さが求められました。「玉津の総合リハビリテーションセンターに向き、ドクターと細かく打ち合わせをしながら、高さや奥行き、スイッチの位置などを検討。患者さんに使い勝手の良い器具の配置を検討しながら設置しました」。トイレが左右対称の造りになっているのも、右側が不自由な方、左側が不自由な方それぞれが使いやすいように。設備の心臓部ともいえる機械室も、メンテナンスが容易な構造になっています。

患者に優しく、整った環境で高度なリハビリテーションが受けられるセンター。今後は、リハビリテーション西播磨病院を退院後直ちに社会復帰が困難な患者などのリハビリを継続的に実施する社会福祉施設整備される予定。身体に障害を負った患者の多種多様なニーズに応える充実した施設が誕生します。



写真向かって左が梶浦さん、右が高津さん

兵庫陶芸美術館の建設雑感

兵庫県県土整備部まちづくり局設備課
平井 哲雄



震災から10年の昨秋、丹波立杭の里に兵庫陶芸美術館がオープンしました。

この施設の基本構想が立てられたのは平成6年12月でした。翌年の震災をはさみ、基本計画、事業計画と具体化され、その後数々の屈曲を経て竣工を迎えただけに、「苦節10年」とでもいいますが、震災復興10年と重なり、私にとってひととき感慨深いものがあります。

展示・収蔵庫の適正保存環境に取り組む



展示・収蔵庫の温湿度調整は、展示室は $22 \sim 25 \pm 2$ 、(地域の季節による緩やかな変動を加味) $55\% \pm 10\%$ 、収蔵庫は 22 ± 1 、 $55\% \pm 5\%$ としましたが、システムが展示室を冷温同時取出吸収式冷温水機 + 四管式空調機、収蔵庫を空冷ヒートポンプパッケージ + ヒーターで行うため、かなりの無理が生じました。特に展示室の場合、夏場においてさえ当地の予想を超える一日の寒暖差が見られ、再熱熱源の調整・制御を余儀なくされました。この点については、竣工終盤からオープンまでの間、施工請負の方には大変ご尽力をいただきました。

また、竣工が迫るなかで問題となったのは、常識的にも最低8ヶ月から1年必要とされている完成からオープンまでの期間が3ヶ月余りしかないことでした。また、震災後、先にオープンした県立美術館では木質形仕上げ材による「酸」が問

兵庫陶芸美術館は、当初、県立陶芸館(仮称)として構想されました。

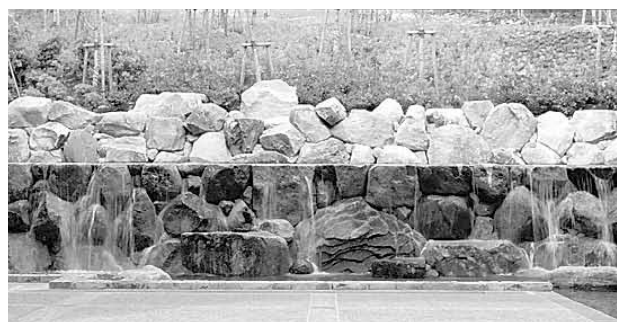
以前から県民会館浜側の全但会館には「兵庫陶芸館」があり、私たち職員も昼食の後、4階にある陶芸館の前を通りながら5階の喫茶室でよく寛いだものです。

実はこの財団法人「兵庫陶芸館」からの寄贈を一つの契機に構想されたのが県立陶芸館(仮称)であったわけです。

題となっているとの情報が入り、果たしてオープンまでに酸アルカリ調整ができるのか心配でしたが、科学的吸着フィルターの効果によるものが無事文化庁のモニタリングにパスしました。

自然との共生をめざして

兵庫陶芸美術館のコンセプトの一つに「緑豊かな自然との共生」があります。「池・流れ・滝」を配置した水景設備は、その構成要素として重要です。まず来館者はエントランス正面に幅15mの滝を見上げ、ブリッジからは池・流れ・滝を眼下に見ながら展示棟へと進む構成となっています。この水景設備は、兵庫陶芸美術館の「みどころ」の一つとなっているのは確かです。設備は見えないところで、この「みどころ」を支えています。その施工に当たられた請負の皆さんの隠れた努力に感謝する次第です。



[建物概要]

名称 / 兵庫陶芸美術館
所在地 / 篠山市今田町上立杭4
主要用途 / 美術館
敷地面積 / 49,324㎡
建築面積 / 4,185.04㎡
延べ床面積 / 6,524.46㎡
階数 / 展示棟地下1階、地上3階
管理棟地上2階
研修棟地下1階、地上2階
茶室棟地上1階
エントランス棟地上3階

構造種別	・展示棟...RC造 ・管理棟...RC造 ・研修棟...S造 ・茶室棟...木造 ・エントランス棟...RC造一部S造
主要外部仕上	・床...豆砂利洗い出し ・外壁...漆喰塗 ・屋根...引掛棧瓦葺(いぶし瓦) ・建具...アルミ製、ステンレス製、スチール製
空調設備	熱源 ・展示棟...冷温同時取出油焚吸収式冷温水機 ・管理棟...油焚吸収式冷温水機 ・研修棟...空冷ヒートポンプチラー ・茶室棟...ビルマルチ方式 ・エントランス棟...ビルマルチ方式 空調方式 ・展示棟...4管式、単一ダクト方式 ・管理棟...ファンコイル方式 ・研修棟...単一ダクト方式 ・茶室棟...ビルマルチ方式 ・エントランス棟...ビルマルチ方式 中央監視 監視センターにて集中監視制御
衛生設備	上水 / 市水本管より引き込み 加圧送水方式 排水 / 公共下水放流 汚水・雑排水分流 給湯 / 電気温水器による局所方式 消火 / 屋内消火栓設備、窒素ガス消火設備(特別収蔵庫) 厨房機器設備 / 喫茶室 レストラン プロパンガス設備 / 低圧...レストラン、中圧...焼成窯 水景設備 / 池・流れ・滝の循環設備・濾過設備

合併で誕生した新市町を中心に、 設備工事の分離発注を陳情



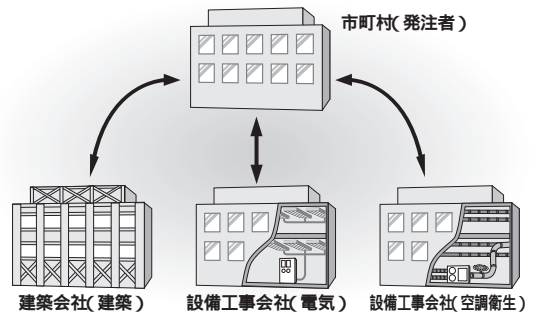
丹波市

平成13年4月、市町を含めすべての発注者が守るべきガイドラインとして「公共工事の入札および契約の適正化の促進に関する法律」(適正化指針)が施行されました。

とくに、入札および契約の過程ならびに契約内容の透明性の確保が重要であり、分離発注の活用にも努めるものとされています。しかし、設備工事は、国・都道府県ではほぼ100%分離発注にはいるものの、市町および第三セクターにおける分離発注は全国的に低レベルなのが現状です。

平成の大合併で新市町の誕生が相次いでいます。協会では、従来からの取り組みに加え、平成16年度から新市町への分離発注陳情活動を積極的に進めています。また、県内10県民局長を訪問し、協会活動のPRを行うとともに、新市町への分離発注の働きかけを要請しています。

17年度は表のとおり、4月から12月にかけて6市町を訪問。設備工事の



日時	訪問先
4月11日	丹波市
5月11日	加美町
7月13日	香美町
10月18日	南あわじ市
10月31日	朝来市
12月16日	養父市

加美町(現・多可町)への分離発注の要望(概要)

日時 / 平成17年5月11日(水) 10:00 ~ 10:40

場所 / 加美町役場

面談者 / 戸田善規町長、足立邦夫助役、
木原喜晴総務課長、山口昌平建設課員

出席者 / 当協会 柳川彰仁副委員長、藤田誠一設備開発委員長、
仲田武明専務理事、近都吉草地元会員

電業協会 宮崎容治会長、宮川晃開発プロジェクト副委員長、
江口靖夫専務理事、前川秀一地元会員

概要 / 戸田町長に、柳川副会長、宮崎電業協会会長より陳情書および資料を提出。

分離発注のメリット、両協会の概要について説明するとともに、戸田町長の質問にお答えしました。



加美町

町長 当町での分離発注の状況が全国で下から5番目ぐらいのことですが、具体的にはどのようなものですか。

協会 過去の実績等から統計を出したのですが、ざっと、3割ぐらいです。

助役 私どもも分離発注に対応していきたいのですが、なにしろ小さな町ですから。大きな金額の事業の場合は、当然分離の問題が出てきますが、やはり、事業規模が一番大きく影響してくると思います。

協会 町によっては基準を作っているところもあります。分離発注を完全に実施されている神戸市の場合は、設備が何パーセント以上の場合には分離発注すると決まっています。小さい物件につきましては、一括にするという規定です。

助役 平成18年度に杉原小学校の大規模改造を考えていますが、その中では分離を考えなければいけないかなと

思います。後のメンテなどを考えれば、きっちり分けて専門のところに出したほうが良いのは分かります。ただ、小さな物件の場合、分離すると諸経費の割合が増え、かえって高くつくのが問題です。とはいえ、この趣旨は踏まえなければなりませんので、全体工事に占める割合を検討し、趣旨に沿うようにしたいと思います。

協会 全体の金額も問題ですが、設備が占めるウエイトもあります。金額が高くて設備がコンマ数パーセントというのであればいかかと思いますが、金額が低くてウエイトが高いものについては、分離をお考えいただければと思います。

町長 本日おいでいただいた趣旨につきましては、十分理解できます。今後考えさせていただきます。

協会 どうぞ、よろしく願いいたします。

兵庫県青年洋上大学

参加レポート

兵庫県青年洋上大学に参加にして

株式会社トラス 山本 達也



写真左から2番目が山本さん

まずはじめに、兵庫県青年洋上大学についての概要を少し説明させていただきます。

発足は昭和46年(私が生まれた年です)。総長は兵庫県知事の井戸敏三さんです。

目的は、「地域社会を担う青年として果たすべき役割や社会参加への自覚を促し実践活動によるリーダーを養成する」ということであり、実施期間は、平成17年9

月17日(土)から25日(日)までの9日間で、訪問地は中華人民共和国(上海・北京・青島)、使用船は日本チャータークルーズ株式会社所有の「ふじ丸」23,235トン、乗船者は一般団員340名、青年団員95名、スタッフ等52名の総員487名です。

私はこの兵庫県青年洋上大学に洋大生として参加しましたが、私自身、何をしに行くのか、何の目的なのか、全く分からないままでしたが、何回かの事前研修があり、その目的とか船内活動でどういったことをするのか、又、中国へ行ってどういう交流をするのかを研修しました。

いざ本研修に参加してみると想像以上に違って、いろいろ戸惑いました。最初の船内活動では、県民の方との班のつどいでした。何もかも自分たちで決めなければならなかったのです。そこで我々は洋大生4人の中に徳島県の出身者がいたので、みんなで阿波踊りをすることにしました。フリータイムや何回かのつどいで練習をしていくうちに、県民の方々とも仲良くなり自然に交流ができるようになりました。

一方中国の北京ではオリンピックが開催されることもあり、建設ラッシュで中国の力強さを感じ、万里の長城・天安門・故宮では歴史と壮大さを感じました。また、中国北京第二外国語学院の学生さんとの交流では、数人のグループに分かれて、討論会をしたり市内を自由散策しました。みんな将来の目的がはっきりとしていて、その目的の為に勉強をしているというのが凄く伝わってきました。

帰りの船では、我々洋大生は本研修の締めくくりとして、AからFチームに分かれて、最後の日に青年洋大生の主張として、事前研修から今日に至るまで学んできたことをチームごとに発表したのです。

今回の研修で私は、たくさんのお会いがあり、おおくの仲間ができました。このすばらしい出会いや仲間をいつまでも大切に、この研修での経験を職場や地元の方々に伝え、地域交流等にもより一層取り組んでいきたいと思いました。最後にこのようなすばらしい経験をさせていただいた兵庫県空調衛生工業協会や職場のみなさんに感謝いたします。ありがとうございました。



兵庫県青年洋上大学に参加にして

齋藤設備工業(株) 齋藤 陽造



写真一番上・右から2番目が齋藤さん

兵庫県青年洋上大学は事前研修に始まり本研修、事後研修で終了します。事前研修では、様々な職種、年齢の方々と意見を交わし素晴らしい場となりました。本研修については去る平成17年9月17日より同年9月25日までの9日間が本研修となります。

船上生活では、あらかじめ決められていた県民の皆さんが8名、洋大生が5名の計13名が一つの班でくられていました。県民の皆様とは職歴も年齢も違いましたが、凄く温かく話をさせて頂き、大変良い経験となりました。

18日、今井鎮雄学長の講和や池乃めだか講師の講演等がありどちらも普段では聞けない様々な事を聞く事ができ大変、感激しました。

19日、AM7時より洋上慰霊祭が執り行われ、戦没者の事を思い、献花を捧げるといった物で私たちの班の県民さんの中に実際に兄を東シナ海で亡くされた方がおられ、その方のお顔を見ると真剣で誠実で心から思っている事を感じ取れました。その心は色々な面で教えられました。

その後、鈴木正幸講師の講演やバイオリニスト井戸柄里さんの演奏があり井戸柄里さんの演奏は素晴らしく、本当に心が洗われる感じました。兵庫県知事、井戸敏三様との懇談会もあり、洋大生からの質問に対して気さくな態度で対応を頂きとても親近感を覚えました。

20日、21日、22日を上海、北京、青島で過ごしましたが、一番印象に残ったのが上海での話です。見渡す限り高層ビルが建ち並びほぼ全てのビルがライトアップされていて、日本ではおよそ検討もつかない様子で、添乗員の話では今、中国は物凄いスピードで発展を遂げている。そのスピードがあまりにも早すぎるので電力供給が間に

合わない時もあり、街の温度が35度以上の時にはライトアップを行っていません、との事でした。その話を聞き今の日本にはない活力を感じました。どれだけエネルギーを使うねん!!と...

23日、再乗船後に、県民の方々とお会いしましたが、どの方のお顔も疲れてはおられましたが、なんと、晴れ晴れとした表情でした。話の内容はどの旅につきましても、とても素晴らしく心が高揚しました。

24日、この日は台風の影響で船が凄く揺れていましたが、ふれあい交流祭と言うプログラムを行いました。県民の方々と洋大生とが一丸となって行う物で、どの班の出し物も素晴らしく、大変盛り上がり、船の揺れなど微塵も感じさせないくらいの素晴らしい物となりました。

25日、青年洋大生の主張・修了式が執り行われ、どの洋大生のチームの主張も素晴らしく9月17日では検討もつかない様な内容で私を含め青年洋大学の学生は生まれ変わったかのように感じ取れました。

修了式は洋大生、全員が堂々とした態度で修了書を受け取り、中には泣き崩れる方もおり、たった9日間で人の考え方や行動は変わる物だと実感しました。

船上生活を5日間、中国大陸での生活を4日間行いましたが、いずれも私にとって素晴らしく見聞を広める良い体験でした。

この場をお借りして、多数の関係者の皆様へ、心から感謝します。有難う御座いました。





REPORT
in
Russian

ロシア・ハバロフスク訪問団に参加して

須賀工業(株) 森内 啓治

(8/21 ~ 8/26 6日間)

今回の訪問団に参加しての印象は、まず広いと感じました。ハバロフスク イルクーツク間の国内便で3時間飛行機に乗りましたが、上空より見える景色がほぼ同一で全面森林帯であった。この地方では林業しか無いのかなと思いました。

次に今回行った地方は日本より相当遅れていると感じました。初日に到着したハバロフスク空港で全員の手荷物が出て来るまでに1時間以上かかった時と、出国時に3回の出国チェックがあるのですが、最初のチェック対応が1人で処理しており、今回の訪問団約200名のチェックが進まずここでも1時間以上待たされた時、何という国かと思った事と、国際空港としての機能が無いのに呆れました。

次に私は本業である建築や設備に目がいてしまいました。まず新築している建物がレンガ積であるのにビックリしました。なぜこんな工法かと思いましたが、まず地震が少ないのと外気温が -40 ~ +35 (t=75) と大きな温度差がある地方で、レンガがコンクリートより熱貫流率が約半分で断熱効果を考えているのかと思いました。

次にホテルの設備については、よく言われる事ではありますが、給湯が出る部屋と出ない部屋があったり、出ても真っ黒な湯が長時間出る様な状態でした。どんな材料を使い、どの様な配管をしているのか調べてみたいと思いま

した。又西面でエアコンが付いているべき部屋に付いていない部屋があったりで、ツアーの人々から不満の声が多く出ていました。

ロシアはまだ土地の個人所有が認められていない為に、給水管も道路の下でなくいろんな所で露出配管をしています。1000 近い配管をクッションで伸縮を吸収しながら配管をしているのを異様に思いました。

土地に関連して思った事は、郊外のマンションは1DK1万ドル、2DK2万ドルで買える(建物のみ)のに市内中心部の最新マンションが11万ドルと日本並以上になって来ているのに驚きました。ロシアも中国と同じ様に共産党の統制経済 市場経済になってきたなと思いました。

市内を走っている車の7割以上が日本車であるのに驚きました。聞けば日本車は高いが強いとの評価でした。極東ロシアはモスクワより日本・中国の方が近いので、今後は今以上に密接な関係になっていくと思います。

最後に今回の訪問団の各企業の方の中にビジネスチャンスや今後のロシアとの交流のヒントを得られた方がおられると思います。私も極東ロシアの今後の発展と国際化の中で日本の設備会社の力が必要になると思いました。又、現在は新潟や青森との直行便が出ている様ですが、今後は関西との飛行機便が定着していく事により兵庫県との交流が今以上に発展して行く事と思いました。



【参加者】
播州設備株式会社
堀江 貴雄
山本設備機工株式会社
大阪支店
菅原 浩司

FRIENDSHIP GOLF CONVENTION IN BANSYU TOYO GOLF CLUB



平成
17年

親睦ゴルフ大会



期 日：2005.11.17
場 所：播州東洋ゴルフ倶楽部
参加人数：22組 87名

当日は小雨模様との天気予報でしたが、肌寒いものの、昼間は太陽が顔をのぞかせる天気に恵まれました。各ホールでは、日ごろ鍛えた技を競い合う真剣プレーから珍プレーまで、多様なプレーが見られ、和気あいあいの中で大いに親睦が図られました。

なお、今年も、参加者からの善意による「災害見舞金」が寄せられ、パキスタン地震等による被災者支援のため、兵庫県義援金募集委員会に募金させていただきました。

SCORE

順位	氏名	GROSS	HDCAP	NET
1	奥田 淳(株)NAX	86	15.6	70.4
2	岸本 治良(株)ダイケン	88	16.8	71.2
3	浅村 和郎(株)積水化学工業	93	21.6	71.4
4	米田 敏幸(株)エシテック神戸営業所	91	19.2	71.8
5	宇都宮 琢也(株)大和施設工業	102	30.0	72.0
6	建部 正人(株)建部工業	94	21.6	72.4
7	伊藤 次郎(株)三神工業	84	10.8	73.2
8	二宮 孝夫(株)精研神戸営業所	84	10.8	73.2
9	仲田 武明(株)兵庫県空調衛生工業協会	83	9.6	73.4
10	山本 正幸(株)邦設備工業	98	24.0	74.0





社団法人 兵庫県空調衛生工業協会

tel.078-341-0991 fax.078-341-0874

<http://www.hyogo-kuei.or.jp>



このチラシは、大豆油インキと再生紙を使用しています。